

大学生アスリートに対するサポート体制に関する研究

A study of support for student-athletes

1K04B170-0

野口 美穂

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 倉石平先生

序論

アスリートは、膨大な時間とエネルギーを競技に費やしている。

その中で「学生アスリート」は、学生とアスリートの立場を両立させていかねばならない。

学生生活の中でも、大学生活は新しい体験の連続である。学生アスリートの競技生活も、今までとは全く別物になる。

まず日常生活、学業については全て自己管理である。大学での部活動は、全国から高いレベルの選手が集まってくる。活動時間も長くなる。時間とエネルギーの消耗がより激しくなるだろう。競技と学業の両立がより困難に感じるかもしれない。

このように、大学生アスリートは競技の他にも、様々な課題を抱えている。周囲のサポートが不可欠である。

本研究では、大学生アスリートの実態と、必要とされるサポートを明らかにすることを目的とした。学生アスリートの部活動、学生生活、就職活動の実態を調べ、学生アスリートがより競技に集中できる環境の中で、充実した学生生活を送るために、どのようなサポートが必要か考えていきたい。

方法

1. アンケート

早稲田大学バスケットボール部、ア式蹴球部、バレー部、ソフトボール部、陸上部の男女を対象とした。

学生アスリートが抱える不安と、それに関するサポートの現状を明らかにすることを目的としている。

2. インタビュー

対象者は学生アスリート 5 名と、学生アスリートをサポートしている機関の 2 種類に分けた。就職活動中の学生アスリートに接している企業に話を聞くことで、学生アスリートの就職活動の実態と、それに対する悩みを明らかにすることを目的とした。

結果及び考察

1. 必要とされる新たなサポートについて

今回の調査から新たな考えられたサポートは以下の 3 つである。

a) 征時の学業サポート

日本の大学において、単位取得はあまり難しいことではない。学業サポートについては、強い必要性は感じられなかった。しかし遠征など、長期間大

学に行くことができないときに、学業との両立が困難であると感じる学生アスリートが多かった。離れた場所からも授業参加、課題提出が可能である環境を整えたいだろう。

b) 早期からの就職活動に対するサポート

学生アスリートは競技に集中するあまり、競技以外のことに視野が広められずに就職活動に望む場合が多い。また、就職活動中も競技と両立するため、時間や情報が少ない中で就職活動を行っている場合が多い。卒業後に競技を続けるのか、自分が競技以外で何に関心があるのかを、早い時期から想像しながら競技生活を送れば、スムーズに進路を決定できる。両親や競技の指導者など身近な存在が、このような認識を持ち、的確な助言ができる学生アスリートにとって、大きなサポートになる。

c) 精神面へのサポート

海外の大学と比べて、最も違いを感じた点は、サポート機関が多く、学生アスリートに深く浸透し、身近な存在になっているということだ。

一方アンケート調査では、悩んだときの相談先として大学の機関を挙げた学生アスリートは少数であった。時間が限られておらず、常時空いている。ここへ行けば、誰かが競技の相談に乗ってくれる人がいる。他の学生アスリートと学業について情報交換ができる。競技から離れ、リラックスした時間を過ごすことができる。日本の大学のサポート機関において足りないものは、このような「気軽さ」であると感じた。

2. 学生アスリートが競技によって得られる能力について

今回学生アスリートに必要なサポートを考えていく上で、多くの学生アスリートと関わった。それによって、新しい視点から学生アスリートへの関心を持った。それは学生アスリートが競技をすることによって、身につけている能力である。

サポート機関へのインタビューでも言われていたように、集団で過ごし、集団を自分達で管理するという経験は社会に入っても必ず役立つ。また、他の学生より多忙な生活を送っているために、自己管理能力が高いと感じた。

学生アスリートが、大学の競技を通してどんな能力を得たのか自覚することができれば、就職活動にも役立つと考えられる。